

「本山寺山森林づくりの会」活動報告

武田壽夫(文、写真)、倉谷邦雄(写真)、山 國(写真)

日 時：2018(平成 30)年 6 月 17 日(日) 9:30～15:30

気 象：天候=晴 (12 時の気温：20℃)・・・近畿地方は昨 6 日に梅雨入り

活動エリア：44 林班ろ(山腹西斜面と溪流部)

活動内容：溪流の崩壊箇所での簡易木柵設置

林床整備(残置木の処理=玉切りと柵積み、落枝の整理) など

参加者：石原順子、斧田一陽、小櫃徹夫、倉谷邦雄、後藤和子、杉本佳英、武田壽夫、

中久保忠伸(午後)、中村賢三、宮本 廣、茂木完治(午後)、山 國、若林朋世(午後)

(計 13 名)

<6 月の第三日曜日は・・・>

今日は「父の日」、もっとも高齢者が多い当会にあつては「ジジの日」かも？。梅雨の晴れ間で見上げる空は「半分、青い」。そんな天気誘われてか参拝者駐車場はポンポン山へのハイカーの車が多い。今日の活動は木柵設置と林床整備、各 5 人・2 班で始める。各班の作業は次の通り。

- ① **木柵設置**:規模は小なりとも、我々にとっては大「工事」、気構えはさながら噴出する地下水と格闘する映画「黒部の太陽」並み。土砂の流出を軽減する簡易な透水型の木柵づくりを目指し、土嚢袋に掛け矢、チェーンソーなど大荷物で出発。
- ② **林床整備**：「44 林班ろ」のモニタリング調査区周辺の整備を北に伸ばす。この山腹西斜面には切り倒したままのヒノキ等が長々と、且つ「延々」と重なりあっている。

なお、参加者中 3 人は午前中「不動谷」の沢に attack、午後は木柵組に合流。(遡行は写真を参照)

<今日の成果：祝!! 難工事(簡易木柵)概成>

木柵設置：土嚢づくり・倒木を玉切りしての杭(クイ)などの用材づくり、杭穴掘りにアスファルトダンバーを使っての杭打ち、基礎杭の補強・結索、透水の為の横木渡し・・・と、手際良く(?)作業を進める。午後は沢登りの一行も加わり一日がかりで「透水型簡易木柵」を概成。

林床整備：活動地へは作業道を廻って比高 50m 程の尾根を進む。山腹の傾斜は 20～30 度はあり、いつも滑りがち。地面に重なるヒノキの枝は足の踏み場を妨げるし、φ 30cm 超の倒木は鋸の手に余る。それでも何とか 30×50m を仕上げ。先には未整備の山腹が伸びるが、湿度が増し、バテ気味で早々に退散。

<季節の山だより>

7 日に見た蛙の卵はオタマジャクシになって泳ぎ出したのか、姿はなし。今日の紹介は「ザトウムシ」と「キノコの仲間」。ご存知の方は教えて下さい。木柵工事には「イモリ」が姿を見せる。

<追記—大阪北部の地震>

翌 18 日 7 時 58 分、発生、影響を蒙られた方々に、先ず「お見舞い」。本山寺山は震源地の北北東 15～20km

に位置しよう。作業小屋内の用具の散乱、山道の崩れなど、気掛かりは多い。大過なければ良いが、次回は片付けと巡視で忙しくなりそう。
(本文 以上)

【今日も無事に活動終了】

後列左より：武田、杉本、石原、宮本、山國、後藤、小櫃、
中久保、斧田
前列左より：倉谷、中村、若林、茂木



【木柵を築く①】

一両岸部の杭打ちはアスファルト・ダンパーを援用



【木柵を築く②】

一用材をチェーンソーで準備する



【木柵を築く③】

一穴掘り器も活躍、足下は土嚢



【木柵を築く④】

一掛け矢で次々と杭を打ち込む



【木柵概成】

一土嚢と石の基礎固めが見える



【林床整備①】ーヒキの枝も始末して積む



【林床整備②】ー絡んだ枝は作業を妨げる



【林床整備③】ー①の作業後



【林床整備④】ー②の作業後



【ザトウムシ】

ー座頭市には非ず、アメリカではあしながおじさん (Daddy Longlegs)。クモでなくダニの仲間。



【私は誰でしょうーキノコの仲間？】



【本山寺周辺の滝を訪ねる】

◆ポンポン山への尾根筋は東西に沢山の沢を落としていく。茂木会長以下3名は、午前中、ポンポン山から西北に落ちる「不動谷(出灰川 B 沢=仮称)」を遡行。以下はその記録。(位置は右図を参照)

↓木柵工事に顔を見せたイモリ↓



【参考：本山寺周辺の水系図】



注：本図は国有林を含んでいます。国有林への入林は森林管理局の許可が必要です。

【本山寺周辺の滝巡り①】 一行場の滝



【滝巡り②】 一行場の滝を登る



(注)名称は仮称、落差は概数

【滝巡り③】 上流の連瀑(落差 30m)



【滝巡り④】 「秘瀑」(落差 20m)

